

中学生の「税についての作文」及び、小学生の「税に関する書道・ポスター」の募集事業について

次代を担う中学生及び児童の皆さんに、税を身近に感じ、自分たちと税がどのように関わっているかを正しく理解してもらう趣旨から、国税庁・全国納税貯蓄組合連合会・兵庫県納税貯蓄組合総連合会等が主体となり事業を実施しています。

✿兵庫県納税貯蓄組合総連合会 会長賞



市小6年 西 梨々花



賀集小6年 堺 玲乃



浦小5年 福原 煌大

✿淡路納税貯蓄組合連合会 会長賞



神代小6年 村本 楓華

✿公益社団法人淡路納税協会 会長賞



神代小6年 浪花 歩奈

兵庫県納税貯蓄組合
総連合会 会長賞

六年 矢野 圭悟
鮎原小6年 矢野 圭悟
納税

六年 日野 未依菜
中田小6年 日野 未依菜
納税

六年 奥井 魁人
津名東小6年 奥井 魁人
納税

淡路納税貯蓄組合連合会 会長賞

五年 川原 直樹
洲本第一小5年 川原 直樹
納税

六年 菱田 彩希
洲本第二小6年 菱田 彩希
税金

六年 増田 羽桜
洲本第二小6年 増田 羽桜
納税

五年 松井 康聖
洲本第三小5年 松井 康聖
納税

六年 中西 里美
加茂小6年 中西 里美
納税

六年 植松 心優
大野小6年 植松 心優
納税

六年 奥村 優香
由良小6年 奥村 優香
納税

六年 牧戸 愛佳
安平小6年 牧戸 愛佳
納税

六年 大下 仁愛
鮎原小6年 大下 仁愛
納税

六年 坂東 桃愛
広石小6年 坂東 桃愛
納税

五年 北山 しずく
広石小5年 北山 しずく
納税

五年 瀧 菜々子
塩田小5年 瀧 菜々子
税金

六年 八田 胡捺
学習小6年 八田 胡捺
納税

六年 山田 依桜愛
学習小6年 山田 依桜愛
税金

五年 岡本 花奈
一宮小5年 岡本 花奈
納税

五年 櫻井 紀輔
一宮小5年 櫻井 紀輔
税金

六年 古川 奈那
倭文小6年 古川 奈那
税金

公益社団法人 淡路納税協会 会長賞

洲本第三小5年 河野日向
五年 納税

鮎原小6年 梶田潤
六年 納税

中田小5年 大下莉乃
五年 納税

津名東小6年 久保田朝陽
六年 納税

松帆小6年 山崎ちひろ
六年 納税

八木小6年 清水咲来
六年 納税

市小6年 西梨々花
六年 納税

神代小5年 立石梨緒
五年 納税

北阿万小6年 濱田怜奈
六年 納税

広田小5年 寺内幸奈
五年 納税

松帆小6年 池田涼乃
六年 納税

松帆小5年 東浦いずみ
五年 税金

湊小6年 上野祐哉
六年 税金

辰美小6年 雨堤一華
六年 納税

榎列小6年 居内絢音
六年 納税

榎列小5年 前田鳳来
五年 税金

八木小6年 松田悠希
六年 税金

市小5年 松田侑奈
五年 納税

神代小5年 榎本步美瑠
五年 納税

福良小6年 雑賀優育
六年 納税

阿万小5年 阿部成滝
五年 完納

広田小6年 西野美咲
六年 納税

広田小6年 樋口希世来
六年 税金

広田小5年 川添大知
五年 税金

広田小5年 長田萌々
五年 納税

入賞作品抜粋「あわじ島税の作品カレンダー（令和2年度版）」を配布します。希望者は淡路納税協会へ。

 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

大切な家族のために

洲本市立五色中学校 3年 高橋ひかり



私には89歳のひいおばあちゃんがいる。私が小さい頃、よく子守をしてくれていたらしい。そして数年前までは、近所のおばあちゃんたちと元気にゲートボール

をしていた。優しく元気モリモリの自慢のひいおばあちゃんだ。しかし、歳を重ねるごとに物忘れが増えたり、ご飯を食べ終わったばかりなのに、「お昼ご飯まだ？」と聞くなど、認知症のような症状が現れてきた。

今、ひいおばあちゃんは、私のおばあちゃんとおじいちゃんと3人で暮らしている。家にはキッチンがあって、火を使うと危険だし、24時間安全に見守れるわけではないので、おばあちゃんとおじいちゃんは、介護施設に入れた方が良いのではないかと考えた。だが、入所待ちなどがあり、簡単に施設に入ることはできなかった。このような介護難民といわれる人は、2012年で550万人、2025年には700万人にもなると推定されている。これは今の日本の問題点だと思う。

この問題には2つの原因があると思う。1つは、施設の数が少ないことだ。これは実際にあった例だ。定員18名の住宅型有料老人ホームがあった。この小規模な施設を作るのにかけた費用はいくらだろう。なんと約3億3千万円。日本では今後

人口が減り続けるのだから、こんな高い施設を作るのは無駄が大きいので、初期投資が少なくてすむ、デイサービスや在宅介護が推進されている。

2つ目は、介護の現場で働く人が少ないことだ。介護のための施設やサービスがあっても、そこで働く人がいなくてはどうにもならない。少子高齢化が進む日本では、人手不足は深刻な問題だ。外国人労働者を受け入れて、介護に従事してもらう例も増えている。また、技術がどんどん進化している今、介護職の行っている業務の手助けをする介護ロボットなどが開発され、実用化に向かっている。ロボットが介護する世の中は、そう遠くないのかもしれない。

介護を取り巻く状況は厳しいが、国では社会保障改革の一環で、本年10月より消費税の増税が行われることになっている。消費税が上がることで得た約14兆円は、全て社会保障に使われ、その内約3兆円は介護などに役立てられる。私は、消費税が上がると聞いて、正直嫌だなあと考えた。私と同じような気持ちになった人は多いだろう。だが、その税金ひいおばあちゃんや家族が安心安全に暮らすために使われると知り、そんな気持ちが消え、なんだかいいことをしている気分になった。

税金は国や地域を支え、制度を支え、そして家族を支えることに使われている。税金を多く払うことは損と思わないで、みんながお互いを支えあうために必要なお金だと思うようにすれば良いと考えた。

*この作文は、納税表彰式典で朗読披露されました。